



さがなクン



根本さんと海のエコ環境のお話

モルディブ訪ねて

先週に引き続き、国際連合(国連)の活動を日本の人たちに伝える国連広報センター所長の根本かおるさんと、海の環境についてお話をしました。

ね (根本かおるさん) さかなクン、今年はいまだにどんな海に行きましたか？

さ (さかなクン) はい！地元千葉館山(くさね)の海にもたくさん行きましたが、先日インド洋の島国、モルディブを初めて訪れました。美しい島々の「リゾート地」、海での「ダイビング」というイメージがありましたが、首都マレの様子に驚きました。小さな島いっぱいビル



が立ち並び、その重さで島が沈んでしまふんじゃないか？と心配になるほどでした。人も大勢いました。約2平方キロメートルにおよそ10万人が暮らし、東京の4倍ほどの密度だと聞きギョギョッとビックリしました。

ね さかなクンはお魚を食べる取材で行かれたんですよね？どのあたりに行かれたんですか？

さ はい！首都マレからお



モルディブのかつお節でギョざいます



マイ箸を持つさかなクン(右)とマイボトルを持つ根本さん(左)東京都渋谷区の国連広報センター、近藤理恵撮影

ね モルディブは国の面積が限られているので、養鶏場、養豚場、牧場が造りにくいそうです。だからたんばく源としてお魚がとても大切なんですね。お肉や卵、野菜、果物などはほとんど輸入しなければならぬ。フードマイレージ(食材の輸送にかかる距離)はすごくかかっているんです。

島が沈む危機が...

さ 港に並ぶお魚は8〜9割がカツオちゃんやマグロちゃん仲間でした。職人さんが手際良く、なんと！頭や内臓もスーぷなどのお料理用としてお皿にきれいに並べて販売していました。カツオちゃんも皮をはがして、三枚におろします。そのものすっごくいい早業にギョギョッとびっくり！無駄なく、お魚を大切に活かしていらつしやることに感動しました。

ね さかなクンも島が沈んじやうんじやないかと言っていました。いま現実のものになっているんです。

モルディブは、端から端まで見たせてしまえそうなほどの小さな島が多く集まっています。

す。温暖化に端を発した海面上昇や異常気象で、高潮が来ると住めなくなってしまうとして、移住が始まっているんです。首都マレの横にフルマレ島という人工島があり、その拡張工事でも進んでいます。そこは離島で暮らせなくなった人が移り住むための土地にもなります。地球温暖化で島が沈んでしまうなんて、遠い世界の問題と感じてしまいがちですが、すでに現実

に起きている問題なんです。
さ そうなのですねー!!
ね モルディブは人口約40万人で、それほど二酸化炭素などの温室効果ガスを出していません。多く排出しているのは先進国や中国、インドなどの大国です。それにもかかわらず、しわ寄せはモルディブのような島国

です。そこらへんがわかって、しわ寄せはモルディブのような島国です。
さ ありがたいとギョざいます。

朝日小学生新聞
2018. 8. 4. 掲載

